



1. 経緯

- 近年の高等教育の拡大や国際化の進展に伴い、国際的にも高等教育の多様な質を評価することが要請されるようになった。
- こうした状況を受け、政府や高等教育機関、質保証機関による学習成果の評価方法の改善に資するため、OECD(経済開発協力機構)において、高等教育における学習成果の評価(AHELO※)に関する国際的な検討の可能性を探るフィージビリティ・スタディ(FS)※の実施が提案された。
- 我が国は、2008年の「OECD非公式教育大臣会合」において、FSの参加を表明。

※AHELO: Assessment of Higher Education Learning Outcomes

※フィージビリティ・スタディ: 試行的に試験を行い、本格的な実施可能性を明らかにすること

2. AHELOフィージビリティ・スタディの実施

- AHELO・FSでは、一般的能力(Generic Skills)と分野別技能(Discipline-Specific Skills: 工学、経済分野のみ)について、①各国の多様性と特殊性を踏まえつつ学習成果を適切に測定するテストの開発の可能性、②言語や文化を超えた国際比較の可能性、を検証するために、調査枠組みの開発、テスト問題と採点基準の作成、それらの妥当性の検証作業が参加国において実施された。また、学生の置かれている状況や学習環境と学習成果との関連性を調査するため、学生、教員、機関に対する実態調査(Contextual questionnaires)も実施された。
- 我が国は、中教審大学分科会に設置した「OECD高等教育における学習成果の評価に関するワーキンググループ」において議論を行い、工学分野への参加を決定。
- 参加国数は、我が国を含め17カ国。これまで総計で248の高等教育機関と約2万3千名の学生が参加。

(参考)参加国

一般的技能: コロンビア、エジプト、フィンランド、韓国、クウェート、メキシコ、ノルウェー、米国、スロバキア

分野別技能(経済学): ベルギー、エジプト、イタリア、メキシコ、オランダ、ロシア、スロバキア

(工学): 日本、オーストラリア、カナダ、コロンビア、エジプト、メキシコ、ロシア、スロバキア、アブダビ

OECD「高等教育における学習成果の評価」(AHELO)

3. AHELOフイージビリティ・スタディ結果報告書

- フイージビリティ・スタディ(FS)の調査結果はOECDより報告書にとりまとめられ、第1巻は2012年12月、第2巻は2013年2月、第3巻は同年10月に発行された。
- 第1巻:AHELOが提案された背景や目標・計画を示しつつ、FSの構成や運用方針、テスト問題や採点基準といった調査枠組みの開発、実施過程が説明された上で、それらの実現可能性が報告された。
- 第2巻:FSによって得られたデータ分析における有効性や信頼性の検証、日本を含む参加各国ごとの調査結果や経験が報告された。
- 第3巻:専門家による付加価値測定について、測定方法の評価や本年3月に開催されたAHELO・FSの結果についての国際会議の成果報告がされた。
- 上記報告書によれば、FS実施の結果として、「高等教育の学習成果の国際比較は科学的に可能」という結論であったが、一方で、これまでの議論の中で、参加国間でAHELOの活用目的に意見の隔たりがあるなど、今後の発展に向けて検討すべき課題も明らかとなった。

4. 今後の取組の方向性

- 来年4月開催予定のOECD教育政策委員会(EDPC)における2015-16年度予算の優先順位付けについての議題において、AHELOの本格調査に向けた今後の取組の方向性についても協議が行われる予定。
- 上記EDPCでの議論の結果やOECD事務局による計画・提案等を踏まえ、我が国としてAHELOの本格調査に向けた対応の方針の検討を進めていく予定。
- 国立教育政策研究所等、国内の専門家により、教育改善に資する成果を得ることを目的とし、FSの調査データの継続分析・研究が行われている。本年12月に分析結果をもとに国立教育政策研究所による国際シンポジウムが開催予定。